

成安造形大学所蔵
「寄贈浮世絵コレクション」

小寄
善通

Title :

Seian University of Art and Design's "Donated Ukiyo-e Collection"

Summary :

Here I will introduce Seian University of Art and Design's "Donated Ukiyo-e Collection" consisting primarily of Ukiyo-e prints donated to the university in 2011. There are 71 works (91 pieces) in the collection, most of which have Omi as their motif. The artists is a master of Ukiyo-e who was active from the end of the Edo Period to the beginning of the Meiji Period in Edo (Tokyo).

昨年本学は、附属近江学研究所の活動を支援してくださる一個人の方から、浮世絵版画を中心とするコレクションの寄贈を受けた。コレクションは七三件（九一点）に及び、近江八景や東海道の宿場町、大津絵など近江をモチーフとした作品を主体としている。このなかには浮世絵版画のみならず近江八景図の版木四点や、浮世絵以外に、琵琶湖畔を描いた泥絵一点も含んでいる。画家はすべて江戸時代末期から明治時代にかけて、江戸、東京で活躍した浮世絵師である。

まず、本コレクションの内訳であるが、近江八景関連が十八件・三〇点、街道の宿場を扱ったものが四七件・四七点、武者絵・大津絵関連・その他が八件・十四点を数える。

このうち近江八景関連では、栄松齋長喜「近江八景」の版木四面〔(1)―1、数字は作品一覧および写真リストの番号を指す以下同じ。〕が特筆される。いずれも片面彫りで、円窓内に八景のうちの一景を彫出し、その上下に近衛信尹（あるいは近衛政家）作と伝える和歌を添えたものである。版木としての役割を終えたのち、一時火鉢の側板として再利用されていたため、現状では釘穴が認められる。

「近江八景・三井晚鐘」〔1〕3、「近江八景・堅田落雁」〔1〕4は洋風表現を顕著に取り入れたもので、作品一覽では寄贈時のリストに従い、いずれも柳々居辰斎の作品としているが、前者〔1〕3は歌川国虎の作品である可能性も考えられる。筆者判定については後考に俟ちたい。また作者不詳の「泥絵三井寺・琵琶湖」〔1〕11は、江戸時代末期に洋風表現と結びついて制作された泥絵の技法による近江名所図の一例として見逃せない資料である。現在の天津港あたりから北方、琵琶湖と三井寺を捉えた景観である。

このほか、歌川芳虎「近江八景図」〔1〕7、三代歌川豊国「近江八景」〔1〕8、二代歌川国貞「近江八景」〔1〕10など、近江八景を背景にして、歌舞伎などの登場人物を組み合わせた作品も含まれる。

次に街道の宿場町を描いたものでは、名所絵の名手歌川広重の手になる「東海道五十三次之内」〔2〕1があげられる。有名な保永堂板で名を挙げた広重による東海道五十三次シリーズのなかの葛吉板である。二代、三代広重による作例も含まれており、二代広重（喜斎立祥）のものとしては「東海道五拾三驛」〔2〕8、五点、「東海道五十三次」〔2〕9、二点があり、三代広重による明治八年（一八七五）の「東海名所改正道中記」〔2〕3、五点は文明開化当初の天津市街などを描き、風俗資料としても興味深い。

また、本コレクション中、シリーズ作品として最多の作品数

十九点を数えるのが「東海道名所風景」〔2〕2である。「御上洛東海道」とも称される本作品は、文久三年（二八六三）二月から三月にかけて將軍徳川家茂が上洛するに際し、江戸の版元十数軒が協力して国貞（三代豊国）、二代広重以下歌川派十六名の絵師を動員して制作されたもので、総数一六二点に及ぶ。本コレクションでは豊原国周、歌川国貞、艶長、芳艶、国綱、芳虎、周麿、二代広重、芳盛、月岡芳年の十人の作品が含まれる。これに類する作品に「末廣五十三次」〔2〕4がある。長州征伐のために慶応元年（一八六五）に大坂入りした將軍徳川家茂の三度目の上洛を題材にしたもので、二代歌川国貞、二代歌川広重、五雲亭貞秀、歌川芳幾、二代歌川国輝、月岡芳年、歌川芳盛、豊原国周の八名が参加している。將軍が率いるものしい行列を主にした表現で、「御上洛東海道」のもつ比較的穏やかな景観描写とは異なった雰囲気を持つ作品である。本コレクションには五雲亭貞秀、月岡芳年、歌川芳盛の作品が含まれる。

「東海道五十三對」〔2〕5は広重、国芳、三代豊国の競作で全六二枚のシリーズ。本コレクションでは幕末の鬼才国芳が土山の坂上田村麻呂と天津の土佐又平を描いたものを含んでいる。このほか、三代歌川豊国（国貞）の作品「東海道五十三次之内・大津ノ図」〔2〕6や「東海道五十三駅名画之書分草津大津」〔2〕10では大津絵の店頭風景が描かれ、同「木曾六十九驛・鳥居本」〔2〕11では幕末期の制作にふさわしく、

名所絵に役者絵が重ね合わされている。

以上のほか、武者絵としては歌川国芳「耀武八景 粟津夕照 巴御前」〔3〕-3〕や、その弟子歌川芳員による「明智左馬助湖水渡り之図」〔3〕-1〕、大津絵関連では、やはり国芳による「流行逢都絵希代稀物」〔3〕-4〕や河鍋曉斎「狂画大津絵」〔3〕-8〕などがある。

最後に本コレクションに登場する浮世絵師の一覧を以下に掲げる。

栄松齋長喜（生没年不詳）

柳々居辰斎（生没年不詳）

歌川国虎（生没年不詳）

北尾政美
（二七六四〜一八二四）

鳥山石燕の門人で歌磨と同門。作画期は宝暦から寛政年間に亘る。

初め俄屋宗理に学び柳々居の号を譲られたと伝える。のち北斎（辰政）の門人となり辰の一字を譲り受ける。遠近法や陰影法を用いた洋風風景画で知られる。

歌川豊国の門人。遠近法を用いた洋風の風景画家として知られるが作品は極めて少ない。代表作に「近江八景」八枚揃がある。

北尾重政の門人。寛政六年（一七九四）津山藩御用絵師となり、鋳形蕙斎と称した。のち狩野惟信にも師事。鳥瞰的視点の風景版画を発案したことで知られる。

歌川豊広
（一七七三〜一八三〇）

歌川広重
（一七九七〜一八五八）

二代歌川広重
（一八二六〜一八六九）

三代歌川広重
（一八四二〜一八九四）

歌川国貞
（一七八六〜一八六五）

二代歌川国貞
（一八二三〜一八八〇）

五雲亭貞秀
（一八〇七〜一八七九？）

豊原国周
（一八三五〜一九〇〇）

歌川国綱（生没年不詳）

歌川豊春の門人で初代豊国と同門。広重の師。

歌川豊広の門人。

初代広重の門人。初め歌川重宣。安政六年（一八五九）初代広重の養女お辰の婿となり、二代広重を名乗る。慶応元年（一八六五）お辰と離縁し、以後横浜に移り住み喜斎立祥と号する。

初代広重の門人。初め歌川重政。慶応三年（一八六七）初代広重の養女お辰に婿入りし三代広重を名乗る。

三代歌川豊国のこと。作品数は浮世絵師の中でも最多といわれ、一万点以上に及ぶとされる。

三代歌川国政のこと。嘉永五年（一八五二）三代豊国の婿養子となり二代国貞を名乗る。

歌川（橋本）貞秀。初代歌川国貞の門人。

豊原周信及び歌川国貞の門人。嘉永元年（一八四八）国貞に入門。役者絵の国周として知られ、また明治の写楽とも称せられる。

初代歌川豊国の門人。

歌川国芳

(一七九七～一八六一)

歌川芳艶

(一八二二～一八六六)

歌川芳盛

(一八三〇～一八八五)

歌川芳虎 (生没年不詳)

歌川芳員 (生没年不詳)

歌川艶長 (生没年不詳)

河鍋晁斎

(一八三二～一八八九)

月岡芳年

(一八三九～一八九二)

小林永濯

(一八四三～一八九〇)

田口米作

(一八六四～一九〇三)

初代歌川豊国の門人。

国芳の門人。「御上洛東海道」では十六点を担当。

国芳の門人。晩年は横浜に居住。

国芳の門人。安政五年(一八五八)師から破門される。

国芳の門人。

歌川芳艶の門人。

初め国芳の門人。のち狩野洞白にも師事。狩野派を離れて以後、周磨と称し浮世絵を描く。

国芳の門人。その作風から「血まみれ芳年」の異名をもつ。慶応元年(一八六五)祖父の弟である月岡雪斎の姓を継承する。

狩野永恵の門人。明治に入り浮世絵を描く。

小林清親の門人。

な目録作成及び写真撮影にあたっては、本学芸術文化デザインクラス四年、青山雄介、久保田まり、濱田薫、同三年、神谷佳那子、吉岡美咲の協力を得た。

末尾ながら、寄贈者ならびに学生諸氏に感謝申し上げます。

なお、本稿に掲げた目録は旧蔵者が作成されていた目録の体裁を尊重しつつ、一部加除を加えたものである。また、最終的

成安造形大学所蔵「寄贈浮世絵コレクション」目録

〈浮世絵版画〉

- (1) 近江八景 73件 91点
 (2) 街道 47件 47点
 (3) 武者絵・大津絵関連・その他 8件 14点
- (1) 近江八景 (18件・30点)
- 1 栄松齋長喜「近江八景」 版木 四面(刷り見本六枚付属)
 ① 「比良暮雪」(20・9 cm × 16・3 cm)
 ② 「石山秋月」(20・8 cm × 16・5 cm)
 ③ 「勢田夕照」(20・8 cm × 16・7 cm)
 ④ 「矢橋帰帆」(21・0 cm × 16・8 cm)
- 2 歌川豊広「近江八景・瀬田夕照」
 一枚(竪中判) 23・1 cm × 17・6 cm)
- 3 柳々居辰斎「近江八景・三井晚鐘」
 一枚(横中判) 15・4 cm × 21・4 cm)
- 4 柳々居辰斎「近江八景・堅田落雁」
 一枚(横大判) 23・1 cm × 34・7 cm)
- 5 北尾政美「近江八景・粟津晴嵐」
 一枚(竪中判) 25・8 cm × 19・2 cm)
- 6 歌川広重「近江八景」(有田屋清右衛門板) 横中判
 ① 「石山秋月」一枚(14・8 cm × 20・8 cm)
 ② 「辛崎夜雨」一枚(14・8 cm × 20・8 cm)
- ③ 「粟津晴嵐」一枚(14・7 cm × 20・7 cm)
 7 歌川芳虎「近江八景図」三枚続
 (竪大判) 36・2 cm × 72・6 cm) 明治三年(一八七〇)
- 8 三代歌川豊国「近江八景」(廣小路林庄板)
 竪大判 嘉永五年(一八五二)
 ① 「近江八景之内・三井晚鐘小町」一枚(36・0 cm × 23・7 cm)
 ② 「近江八景之内・三井晚鐘 関兵衛」一枚(36・4 cm × 24・7 cm)
- 9 三代歌川豊国「近江八景之内・矢橋帰帆」(山城屋甚兵衛板)
 一枚(竪大判) 35・6 cm × 25・4 cm) 安政二年(一八五五)
- 10 二代歌川国貞「近江八景」(鳶屋板) 竪大判
 ① 「近江八景之内・辛崎夜雨」三枚続(36・8 cm × 74・4 cm)
 ② 「近江八景之内・瀬田夕照」三枚続(35・9 cm × 74・4 cm)
- 11 「泥絵 三井寺・琵琶湖」一枚(33・3 cm × 48・4 cm)
- (2) 街道 (47件・47点)
- 1 歌川広重「東海道五十三次之内」(鳶屋吉蔵板) 横中判
 ① 「大津」一枚(16・4 cm × 22・3 cm)
 ② 「草津」一枚(16・4 cm × 22・5 cm)
 ③ 「水口」一枚(16・4 cm × 22・3 cm)
- 2 「東海道名所風景」(通称「御上洛東海道」)
 竪大判 文久三年(一八六三)
 一枚(33・6 cm × 22・5 cm)
- ① 豊原国周「東海道之内・双川」(伊勢庄板)

- ② 歌川艶長「東海道名所之内・桶狭間」(正文堂板)
一枚 (32・9 cm × 22・1 cm)
- ③ 歌川芳艶「東海道名所之内・熱田一の鳥居」(正文堂板)
一枚 (32・8 cm × 22・0 cm)
- ④ 歌川国綱「東海道・庄野」一枚 (33・4 cm × 22・6 cm)
- ⑤ 二代歌川国貞「東海道・亀山」(海老林板)
一枚 (33・1 cm × 22・1 cm)
- ⑥ 二代歌川国貞「東海道之内・関」一枚 (33・2 cm × 22・3 cm)
- ⑦ 歌川芳虎「東海道・坂ノ下」(佐野富板)
一枚 (33・3 cm × 22・1 cm)
- ⑧ 周磨(河鍋暁斎)「東海道・土山・鈴ヶ山・坂ノ下」(大金板)
一枚 (32・8 cm × 22・0 cm)
- ⑨ 二代歌川広重「東海道・土山」(糸庄板)
一枚 (33・2 cm × 22・2 cm)
- ⑩ 歌川芳艶「東海道・土山」(正文堂板)
一枚 (32・9 cm × 22・1 cm)
- ⑪ 豊原国周「東海道・水口」(越前屋嘉十板)
一枚 (33・5 cm × 22・3 cm)
- ⑫ 月岡芳年「東海道・石部」(角金板)
一枚 (34・0 cm × 22・8 cm)
- ⑬ 歌川芳盛「東海道・草津」(太田屋多吉板)
一枚 (32・5 cm × 21・9 cm)
- ⑭ 歌川芳盛「東海道・瀬田唐橋」(魚屋栄吉板)
一枚 (32・6 cm × 22・3 cm)
- ⑮ 歌川芳艶「東海道名所之内・石山之秋月」(正文堂板)
一枚 (32・8 cm × 21・8 cm)
- ⑯ 豊原国周「東海道・膳所・矢橋の焔帆」
一枚 (33・2 cm × 22・3 cm)
- ⑰ 二代歌川広重「東海道・大津」(丸鉄板)
一枚 (33・3 cm × 22・3 cm)
- ⑱ 周磨(河鍋暁斎)「東海道名所之内・比叡山」(丸鉄板)
一枚 (32・8 cm × 22・0 cm)
- ⑲ 月岡芳年「東海道・大津三井寺」(角金板)
一枚 (33・8 cm × 22・5 cm)
- 3 三代歌川広重「東海名所改正道中記」(浅草並木山清板)
豎大判 明治八年(一八七五)
- ① 「大津」一枚 (32・8 cm × 22・2 cm)
- ② 「水口」一枚 (33・0 cm × 22・3 cm)
- ③ 「土山」一枚 (33・0 cm × 22・4 cm)
- ④ 「庄野」一枚 (32・8 cm × 22・8 cm)
- ⑤ 「藤川」一枚 (32・9 cm × 22・8 cm)
- 4 「末廣五十三次」豎大判 慶応元年(一八六五)
- ① 五雲亭貞秀「大津」(伊勢屋兼吉板)
一枚 (33・7 cm × 23・8 cm)
- ② 月岡芳年「草津」(木屋宗次郎板)
一枚 (33・9 cm × 24・0 cm)
- ③ 歌川芳盛「石部」(相下板)一枚 (33・5 cm × 22・7 cm)
- ④ 五雲亭貞秀「水口」(糸庄板)一枚 (33・5 cm × 22・8 cm)
- ⑤ 五雲亭貞秀「土山」(伊勢屋兼吉板)

- 5 「東海道五十三對」 竪大判 一枚 (33・2 cm × 22・7 cm)
- ① 歌川国芳「土山」 一枚 (36・5 cm × 24・5 cm)
- ② 歌川国芳「大津」 (伊場屋仙三郎板) 一枚 (36・5 cm × 24・0 cm)
- 6 歌川国貞「東海道五十三次之内・大津ノ図」 一枚 (竪中判) 24・9 cm × 18・3 cm
- 7 歌川芳員「東海道五十三次」 横小判 嘉永六年 (一八五三)
- ① 「大津」 一枚 (11・0 cm × 17・3 cm)
- ② 「草津」 一枚 (10・9 cm × 17・3 cm)
- ③ 「石部」 一枚 (10・9 cm × 17・3 cm)
- 8 喜齋立祥 (二代歌川広重)「東海道五拾三驛」 (丸鉄板) 竪中判 慶応元年 (一八六五)
- ① 「土山」 一枚 (24・2 cm × 17・5 cm)
- ② 「水口」 一枚 (24・2 cm × 18・2 cm)
- ③ 「石部」 一枚 (24・2 cm × 17・5 cm)
- ④ 「草津」 一枚 (24・2 cm × 18・1 cm)
- ⑤ 「大津」 一枚 (24・2 cm × 17・5 cm)
- 9 二代歌川広重「東海道五十三次」 竪中判 文久三年 (一八六三) (元治元年 (一八六四))
- ① 「大津」 一枚 (22・2 cm × 16・3 cm)
- ② 「草津」 一枚 (22・3 cm × 16・3 cm)
- 10 三代歌川豊国「東海道五十三駅名画之書分 草津・大津」 (太田屋多吉板) 一枚 (竪大判) 34・3 cm × 23・8 cm
- 11 三代歌川豊国「木曾六十九驛・鳥居本」 (伊勢兼板) 一枚 (竪大判) 36・2 cm × 25・0 cm 嘉永五年 (一八五二)
- (3) 武者絵・大津絵関連・その他 (8件・14点)
- 1 歌川芳員「明智左馬助湖水渡り之図」 (上州屋板) 三枚続 (竪大判) 36・8 cm × 74・0 cm
- 2 月岡芳年「大日本名将鑑 大兄皇子・中臣鎌足・入鹿大臣」 一枚 (竪大判) 35・2 cm × 23・7 cm
- 3 歌川国芳「耀武八景 粟津夕照 巴御前」 (遠州屋彦兵衛板) 一枚 (竪大判) 36・5 cm × 25・0 cm 嘉永五年 (一八五二)
- 4 歌川国芳「流行逢都絵希代稀物」 (湊屋小兵衛板) 三枚続 (竪大判) 36・2 cm × 73・0 cm
- 5 小林永濯「和英對譯大日本功名略傳・藤原鎌足」 一枚 (竪大判) 36・7 cm × 25・2 cm 明治二〇年 (一八八七)
- 6 二代歌川広重「諸国六玉河・近江野路玉川」 (濃安板) 一枚 (竪大判) 36・1 cm × 24・5 cm 文久三年 (一八六三)
- 7 田口米作「米作漫筆名画大津絵之巻」 三枚続 (竪大判) 34・3 cm × 72・2 cm
- 8 河鍋曉齋「狂画大津絵」 一枚 (竪大判) 36・5 cm × 23・9 cm



(1)-1-①



(1)-1-①



(1)-1-②



(1)-1-②



(1)-1-③



(1)-1-③

成安造形大学所蔵「寄贈浮世絵コレクション」図版
(図版下の数字は目録番号と対応)



(1)-1-④



(1)-1-④



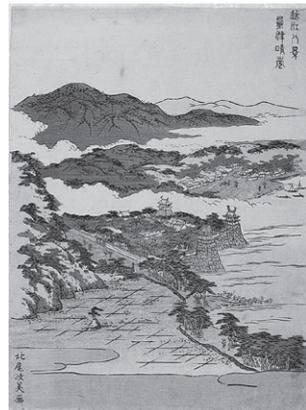
(1)-2



(1)-3



(1)-4



(1)-5



(1)-6-①



(1)-6-②



(1)-6-③



(1)-7-a



(1)-7-b



(1)-7-c



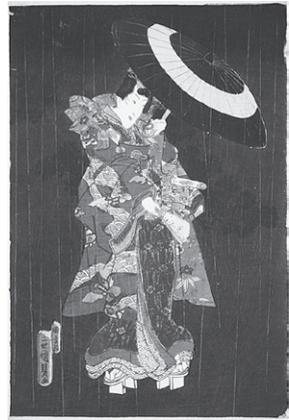
(1)-8-①



(1)-8-②



(1)-9



(1)-10-①-a



(1)-10-①-b



(1)-10-①-c



(1)-10-②-a



(1)-10-②-b



(1)-10-②-c



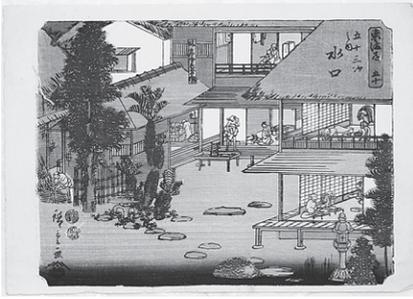
(1)-11



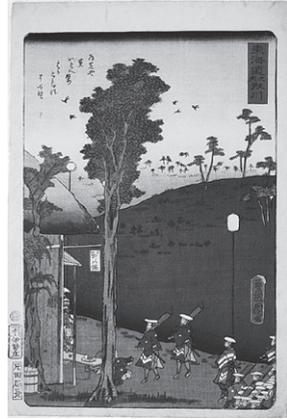
(2)-1-①



(2)-1-②



(2)-1-③



(2)-2-①



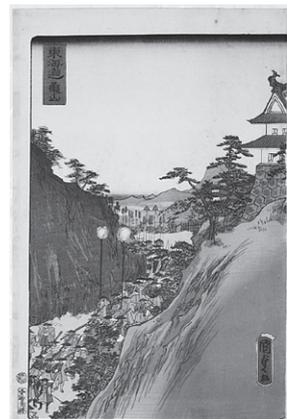
(2)-2-②



(2)-2-③



(2)-2-④



(2)-2-⑤



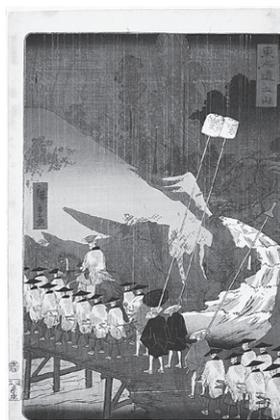
(2)-2-⑥



(2)-2-⑦



(2)-2-⑧



(2)-2-⑨



(2)-2-⑩



(2)-2-⑪



(2)-2-12



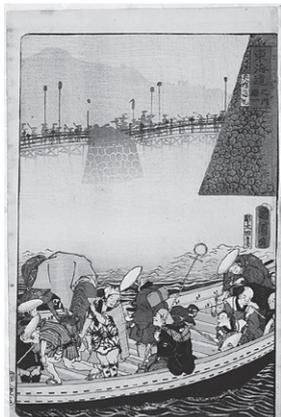
(2)-2-13



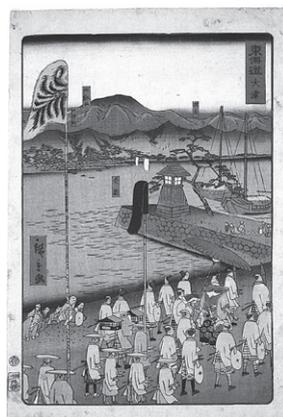
(2)-2-14



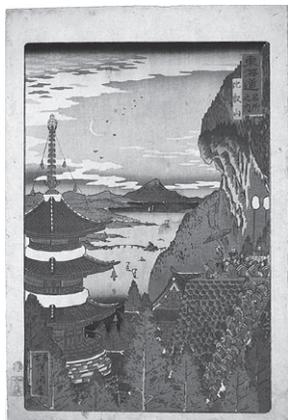
(2)-2-15



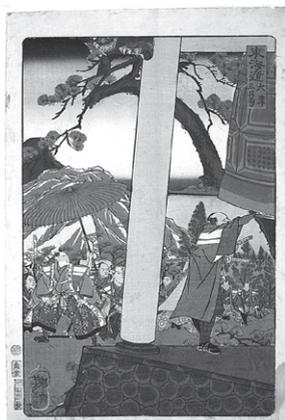
(2)-2-16



(2)-2-17



(2)-2-18



(2)-2-19



(2)-3-1



(2)-3-2



(2)-3-3



(2)-3-4



(2)-3-5



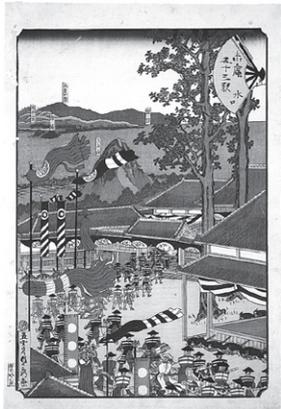
(2)-4-1



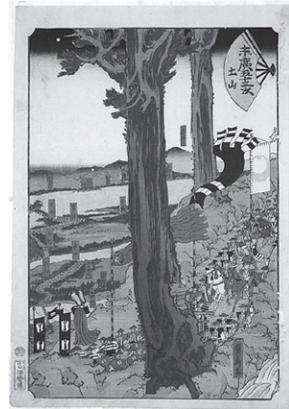
(2)-4-2



(2)-4-3



(2)-4-4



(2)-4-5



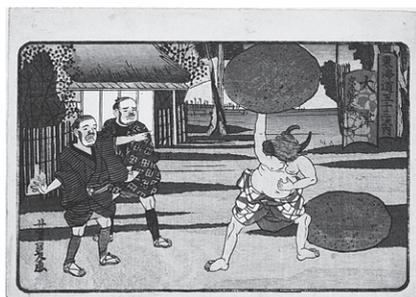
(2)-5-①



(2)-5-②



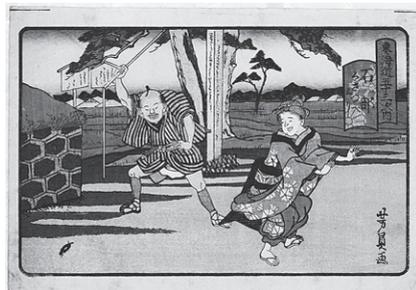
(2)-6



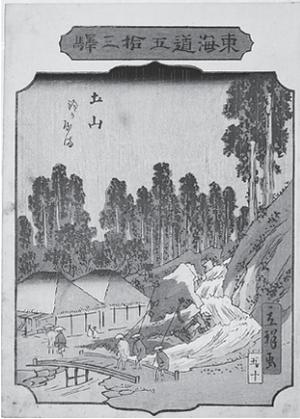
(2)-7-①



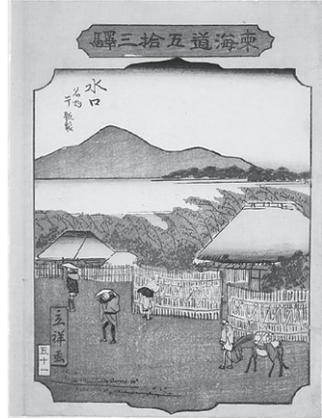
(2)-7-②



(2)-7-③



(2)-8-①



(2)-8-②



(2)-8-③



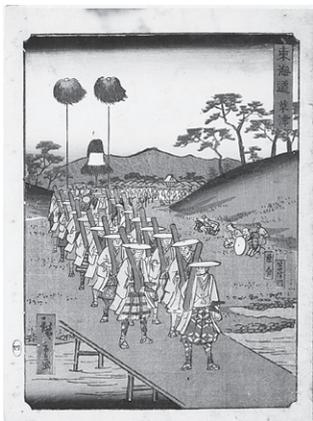
(2)-8-④



(2)-8-⑤



(2)-9-①



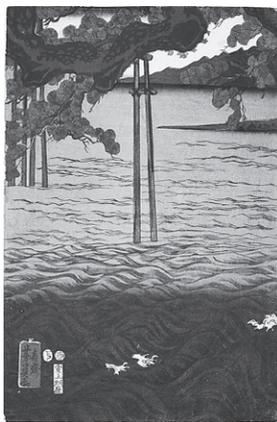
(2)-9-②



(2)-10



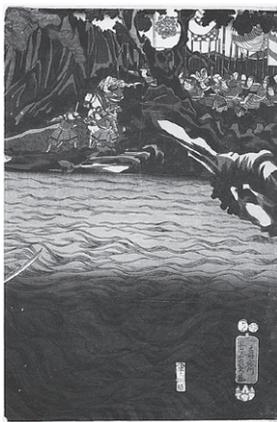
(2)-11



(3)-1-a



(3)-1-b



(3)-1-c



(3)-2



(3)-3



(3)-4-a



(3)-4-b



(3)-4-c



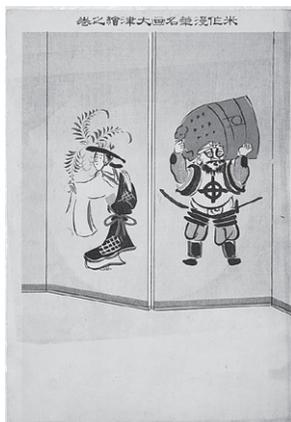
(3)-5



(3)-6



(3)-7-a



(3)-7-b



(3)-7-c



(3)-8

成安造形大学附属近江学研究所紀要 第1号

発行日 平成24年3月19日

発行者 学校法人京都成安学園 成安造形大学 附属近江学研究所
〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
電話 077-574-2118

編集 成安造形大学附属近江学研究所

印刷所 宮川印刷株式会社

©Seian University of Art and Design 2012

ISSN 2186-6937